

P3-0884

病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標項目のデルファイ法を用いた精選と評価指標の試作

臼田 滋^{1,2)}, 内山 靖¹⁾, 原田 和宏¹⁾, 松葉 好子¹⁾, 青山 誠¹⁾, 永富 史子¹⁾, 半田 一登¹⁾

¹⁾病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標作成事業作業部会,

²⁾群馬大学大学院保健学研究科

key words 評価尺度・多職種連携・デルファイ法

【目的】

日本理学療法士協会は平成 24 年度厚生労働省老人保健健康増進等国庫補助金事業として「病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標作成事業」を実施した。本演題では、本事業のデルファイ法を用いた評価指標項目の精選と試作したりハビリテーション評価指標を報告する。

【活動報告】

病期・職種・疾患の違いに関わらず、患者・利用者の状態像を縦断的に評価するために必要な評価指標項目を精選するために、3 回の調査で構成されるデルファイ法を用いた。対象は、臨床経験年数が 10~20 年の理学療法士 120 名、作業療法士 60 名、言語聴覚療法士 20 名の計 200 名で、関与する病期と勤務地域に偏りが生じないように配慮した。round1 では事前に提示した評価指標 120 項目に対する必要度 (5 段階 Likert scale) と追加項目を調査した。round2 と round3 では前回の調査結果を提示した上で、必要度を調査した。それぞれ対象の 70%, 80% 以上が必要と回答した項目を精選した。3 回の有効回答率は 91.5%, 84.5%, 81.0% であった。round1 にて 92 項目が追加され、round2 で 50 項目、round3 で最終的に 22 項目が精選された。10 分以内に評価でき、結果を多職種で共有できること目指し、最終的に活動・参加の 8 項目 (実行状況と能力)、心身機能の 7 項目の計 15 項目から構成される評価指標を試作した。各項目について 0~4 点の 5 段階評定を採用した。

【考察】

評価指標項目を科学的な手続きを経て精選し、評価指標を試作することができた。多角的な検証を踏まえ、簡便に患者・利用者の状態像を把握でき、病期や疾患を問わず多職種間で共有しやすい指標となった。今後は、病期別、疾患別の検証や、縦断的な検証が必要である。

【結論】

デルファイ法を用いて病期・職種を問わず使用できるリハビリテーション評価指標を試作した。